

北九州市における不登校児童生徒のための教育機会確保に係る 検討の経過について（報告）

【現状と文部科学省の方針】

- ・ 令和4年度の小・中学校における不登校児童生徒数は、全国で約30万人と過去最多を記録
- ・ 本市でも同様に増加しており、令和4年度は小学校610人、中学校1336人と過去最多を記録
- ・ 文部科学省「COCOLOプラン」（令和5年3月発表）
不登校になった場合でも、学びたいと思った際に多様な学びにつながるができるように、個々のニーズに応じた受け皿を整備し、児童生徒や保護者に必要な支援を行うことが重要
- ・ 第4期教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）
「不登校児童生徒の多様な教育機会の確保に向けて、不登校特例校の各都道府県・政令指定都市での1校以上の設置を本計画期間内（令和5～9年度）において進め、将来的には、不登校特例校への通学を希望する児童生徒が居住地によらずアクセスできるよう、分教室型も含め、全国で300校の設置を目指す。」

R5.8～R6.2「不登校児童生徒のための教育機会確保に係る検討会議」

第一回（R5.8.24）

- 国及び北九州市の取組
- 教育委員会が考える「ゴール」
- ニーズ調査の手法・調査内容
- 今後の進め方

第二回（R5.11.20）

- 「学びの場と居場所づくりのアンケート」調査結果
- 「軸に据えるべき取組」2つの柱
 - ・ 今通えている場所の居心地向上
 - ・ 新たな選択肢を増やす
学びの多様化学校・校外ステップアップルーム・フリースクール等事例紹介

第三回【軸に据えるべき取組み】（R6.2.16）

- 今通えている場所の居心地向上
 - ・ 各中学校に設置のステップアップルーム・教育支援室の環境改善
 - ・ アンケート結果と多様化学校の取組みを活用し、一般市立小中学校にフィードバック
- 新たな選択肢を増やす
 - ・ 新たな学びの場 ～学びの多様化学校の設置 指定学校制度の柔軟な対応
 - ・ 地域の居場所 ～市民センターや地区図書館など
 - ・ 民間の居場所 ～フリースクール・放課後等デイサービス等と学校の連携強化
- 座長発言（福岡県立大学人間社会学部 小嶋秀幹教授）
「検討会議の中でいただいたご意見を踏まえて、教育委員会の皆様には、引き続き不登校対策の取組みを進めていただきたいと思います。特に、先ほど議論がありました「学びの多様化学校」については、ぜひ北九州市での設置に向けて、前向きに検討をすすめていただきたいと思います。」